

全国国際教育協会

グローバル教育新聞

Vol.2

国際教育・グローバル教育 教材制作プロジェクト始動

第1回編集会議開催 1/15

テーマは「国際教育、グローバル教育の普及」

次世代を担う青少年達が地球市民として国境を乗り越え、ともに手を取り合うためには、自分と全く違った価値観を持った人達であるうと、違いを認識しつつ相手を尊重しながらコミュニケーションを深め、ぎりぎりの問題解決を行え



多様性を秘めた地球

る人間を育てる教育こそが最も有効な手段でしょう。

このような目的で行われる教育を「国際教育」・「グローバル教育」と考え、これらの教育が全国の学校現場で教員の指導のもとに、たやすく実施できるようにすることが急務と考え以下の内容を提案します。

教材の目的

■開発途上国の子供たちが世界の格差のなかでも前



ゾウも子供の友達

向きに生きている現実を知ることから、日本の子供たちに元氣と自信を生み出す。

■資源のない日本にとつて国際協力を日本の文化として国際社会から尊敬と信



食糧やエネルギーなど、世界から支えられている日本

頼を得られるように日本の未来を見据えた教育として行う。

■他者との違いに気がつき、違っていることに対して受け入れる心を育てる。かけがえない存在としての「人間」としての生きかたあり方を、国際教育を通して学ぶ。

教材の対象

■中高生に教える教師用手引きで、そのまま授業に活用できるもの

具体的には

- 総合的な学習の時間だけでなく、各教科の授業でも活用できるもの
- 実際に世界の現場に行ったことがない学校の先生でも使いやすいもの。
- 全国の中学、高校に配布し、グローバル教育を推進できるようにする。
- HRでの活動以外にも生徒会活動や委員会活動などで活用ができる。
- 学校を離れて地域など



全国国際教育協会 Japan Association for Global Education (JAGE)

<http://www.kokusaiken.org/npo/>

E-MAIL webinfo@kokusaiken.org



世界で生きていく子供たちを育てる

でのボランティア活動などにも応用ができる。
 □生徒の年代だけでなく、大人も、ともに学ぶことが出来る。

内容のガイドライン

■自らの文化と世界の多様な文化に対する理解

イスラムとキリスト教などの宗教の違い、地域民族による考え方の違いなど、それを乗り越える事例紹介。

年中行事などを考えてみても、異文化理解をすることが出来る。日本古来のものもあるが、どこからの文化が入り、「文化変容」したものなどについても理解をする。

それぞれの文化を理解することを育てる。

■世界的な問題に対するコミュニケーションによる問題解決能力の開発法

□参加型学習法の紹介



(ベースはAPIC開発教育・国際理解教育ハンドブック)

コミュニケーション能力は異文化を理解するうえで重要なものである。

さまざまな手法を使って、問題を解決していく力をつける。

PLANDO-SEE という形で、自分で企画を立てて推進する力をつける。

□教育におけるファシリテーションスキルの具体的な活用手法の紹介(討議のプロセス)

■世界の格差の存在を知り国際協力の心を育てると同時に自分自身の生き方を考えさせる
 ↓「生きかた」だけでは

なく「生きかたあり方」とする。
 □世界の子供たちの教育環境や生活レベル、幸せの基準などを紹介

□自分の存在を知ることは、宗教、道徳などの倫理観がそこには関わる。

□格差を縮めていくような「アクション」「行動」など踏み込めるともつと良いが・・・

□ボランティア団体などの活動の紹介など。例：プラティープ財団(タイ)

■プレゼンテーション能力の開発法

□効果的なプレゼンの内容、プレゼンに使われる手法の紹介

□教育におけるファシリテーションスキルの具体的な活用手法の紹介(発表のプロセス)

□紙を使って、実物を使って以外に、PPを使って

のプレゼンなどをする。
 □写真などから、一つのテーマを探究する。

■英語だけでなく様々な言語や非言語によるコミュニケーション能力の開発

□英語だけでなく、そのほかの言語によるコミュニケーションや写真やボディーラングエージの活用によるコミュニケーションの紹介

□ユニバーサルマークなどは、世界で共通しているものを見つける。

□ノンバーバルコミュニケーション、音楽などを通して知る。

■国内でできる国際ボランティア教育

□東アジア高校生国際交流の紹介、海外の学生のホームステイ先に



全国国際教育協会

Japan Association for Global Education (JAGE)

<http://www.kokusaiken.org/npo/>

E-MAIL webinfo@kokusaiken.org



□ NGOやNPOの活動を紹介する。

□ 生徒会での活動などの実践。

□ 「地球にやさしいコンテスト」など環境問題にも目を向ける。



□ エッセイコンテストなど国際協力や国際協力をテーマにしたコンテストへの参加

国内でできるボランティア活動紹介、ボランティア活動実践の紹介



■ 世界の現実の実体験の重視によるリアリティの効果

□ 海外修学旅行の例や体験談、海外スタディツアーの例

映像活用もできる

(APIC)が撮影した映像活用、DVD、ブルーレイでテーマごとに収録検索

グローバルな視野で身の回りのことを考えてみよう

■ 自分の将来を主体的にデザインしインターンシップの中で考えさせるキャリア教育

□ 世界に貢献できる職業とは？青年海外協力隊の職種紹介など、キャリアパスを考えることができる

□ 職業調査と同時に、上級学校において何を学んだらよいのか。そこに近づくにはどうしたらよいのか。自分の人生を考えてみる。

□ 社会人として、よりよき社会をつくり上げていくことを念頭に入れる。

□ CSR(企業の社会的責任)の紹介や企業の社会的責任

してすぐに表示)

□ 日本に現在ある「チャイナタウン」などを見学して、発表をする。大久保通りなどは、ハンダールなどが入り混じっている。そこから、感じ取るものを教材として、国際理解をする。「共に生きる」には何をしたら良いのか考える。



グローバルな視野って何だろう？

貢献活動紹介、企業を選ぶ基準のひとつとして考える。

■ ICT活用や科学技術の活用

□ コミュニケーションツールの活用など紹介

WEBとの連携 skype、メッセンジャーなどコミュニケーションツールの活用

□ 外国人との交流の場を

有効に活用する。(自治体の国際交流の場など)

□ 友人とのやり取りなどツールを使って試みる。

■ 地球環境変動の現実を認識し保全の心を育てる環境教育

□ サングの白化など、進行しつつある環境問題の紹介と解決への参加法、ESD



全国国際教育協会 Japan Association for Global Education (JAGE)

<http://www.kokusaiken.org/npo/>

E-MAIL webinfo@kokusaiken.org

- など
- 開発と環境のジレンマを考えさせる
- 環境問題と「南北問題」とがつながりを持っていることに気づく。
- 地球に共存するという観点で、地球環境問題を考える。
- 「かけがえのない地球」の存在と私たちの存在を対比する。
- 地球環境が歴史的にどのように経過してきたのかを学ぶ。
- 私たちにできることは何か話し合う。
- 先生方が使える教材の紹介
- 教材はどこで手に入るのかを知ることができるリスト
- できるだけ、身近にある教材から異文化を理解する。
- 異文化を体験できる町などの紹介。

ODAインターネットテレビ

<http://www.apic.or.jp/plaza/tv/>



財団法人国際協力推進協会が運営している国際協力プラザWEBサイトでは、海外での国際協力の様子を映像で紹介する「ODAインターネットテレビ」が配信されています。学校でのグローバル教育に、ぜひご活用ください。



総合的な学習の時間を利用しての開発教育の実践のために、東京都国際教育研究協議会（旧名称：東京都高等学校国際教育研究協議会、すべての生徒に対応するため高等学校をとりました。）は新課程「総合的な学習」の時間に開発教育や国際理解教育を教えるために、相互理解、異文化理解、多様性、意思伝達、国際協力、自然環境等の観点から教授用展開例を満載した書籍

総合的な学習にも使える 「国際理解教育（地球学習）」

を出版いたしました。

インターネットの活用なども詳細に説明してあります。この展開例を参考にグローバル教育・開発教育を進めて頂きたいと思えます。

A5判 240ページ 1800円
 出版社 清水書院 ISBN4-389-22543-X
 〒162-0813
 東京都新宿区東五軒町1-11
 TEL03-3260-5261 FAX 03-3260-5270



全国国際教育協会 Japan Association for Global Education (JAGE)

<http://www.kokusaiken.org/npo/>

E-MAIL webinfo@kokusaiken.org